

# よみがえれ 方言語

◎15◎

船津 好明

## 沖縄の実用地方語の発展素材

沖縄の実用地方語の振興を図るためには、まず、その基盤を整えることが大切である。このことは、これまであまり考えていなかったことのように思われる。

まず、だれが何をなすべきかについて考えてみる。

言葉は、幼少のころから生活体験を通して自然に身につけるのが本来だから、沖縄の実用地方語の発展を望むならば、子供のいる家庭などでは、親や周囲の人が地方語について第二の実用言語としての認識のもとに、強制などせず、ごく自然な形で子供に伝授体得させるように努めることが最も望ましいと考える。しかし、これが困難な場合や、すでにそのようにされる機会を失った人々については、これからでも意欲に応じて、入門者として学習しうるような態勢を整えることが、地方語の盛り立てには必要である。このような

学習態勢の整備は、地方語がすでに出来る人々にとっても、その一層の洗練に役立つものである。

具体的には何をなすべきか、それはたくさんあるが、まず挙げられるのは、入門者のための発音を重視した活字テキストと音声テキストである。英語等外国語の学習書がアルファベットの発音から始まって一步一步丁寧に、段階的に習得課程が組まれているように、沖縄の地方語についても声の出し方などの基本から始め、あくまで知識の不十分な者に興味を深めさせることを主眼として、懇切に製作されるべきである。言葉の習得は幼児のころから親や周囲の人との接触を通してするのが最も理想的だから、テキストはこれの集約版のような形のもの望ましい。発音第一主義に徹するためには既存の仮名文字だけでは不十分で、新字を

取り入れるなど発音の適正を保つための新たな工夫が必要である。文法、語源、地域差等については、すでに諸学者の研究結果があるから、これらを活用して適宜テキストに織り込むのが望ましいと思う。

辞典類の整備もテキストの整備と並んで不可欠である。辞典類の新たな編纂に当たっては発音が正しくなされるよう、音韻記号を併記する必要がある。音韻を反映しない仮名文字だけでは発音を損なう。また、収録語彙(い)の通用地域を明示することも大切である。新聞社、放送局等のマスコミ機関や、会社、団体等における実用地方語講座は極めて有効なものである。紙上または番組による通信講座は不特定多数が対象だが、特定多数を対象とするものには文化教室のようなものが考えられる。現に音楽や舞踊は、マスコミ機関

等の先進的活動によって深く広く、人々の生活に溶け込んでいるから、実用地方語についても同じことが期待される。

弁論大会などの実施も一般の関心を高める有力な方法である。クラスは年齢別、沖縄での生活歴別など種々考えられる。現に音楽や舞踊のコンクールや発表会などが、新聞社や放送局主催のもとにはしばしばなされているが、これが、この分野の繁栄に果たしている役割には計り知れないものがある。実用地方語についても同じことが期待される。

さらに博物館等における展示品の名称の表示などにも地方語を併用するのが望ましいと思われる。

地方語による新聞、雑誌等の刊行は、地方語支持者にとって夢のような話である。実現の暁には活字文化の花が咲くと思う。(おわり)

(沖縄語研究者)